

## 愛車を盗難から守るための方策

### 常識（最低限の心掛け）

キーを付けたままの自動車は、他にいかなる盗難防止装置を施していようが「盗賊」を無料招待しているようなもの。

わが国ではいわゆる「キー付き（キーの抜き忘れ）」盗難が40%弱を占めている。

警察庁統計によると、依然としてキーを付けたまま自動車から離れ盗まれる割合が高い傾向にある。これは、国民に「安全神話」が根強く残っているためと思われる。自宅の駐車場はもちろん、スーパー・コンビニ・ガソリンスタンド等の「チョットだけ自動車から離れた」ときでも盗まれることを認識する必要がある。

以下の項目を心掛ける

- ・少しでも車から離れるときは、窓を完全に閉め、エンジンキーを抜き、ドアをロックする。
- ・駐車場に防犯灯や監視カメラを設置する。
- ・車内には、現金・カバン・スペアキーなどを置かないようにする。
- ・路上駐車を避け、管理人のいる駐車場を利用する。

### 目に見え、耳に聞こえる抑止装置（第2段の対策）

自動車が盗難に対し防護されていることを「盗賊」へ警告し、合わせて周囲に知らせる仕組み。

「プロの盗賊」は5分もあれば自動車を盗むことができると言われている。しかし、いくらプロとはいえ、大きな音や光が点滅すれば「怯む」ことは確実。さらに周囲の人の知るところとなる。「時間をかせぐ」ためにも効果がある。要は盗賊に「この車手ごわいぞ」と思わせることが大事。

例えば、次のようなもの

- ・3回ドアロック解除を誤ったりこじ開けようとする「サイレンが鳴る」「ヘッドライトが点滅する」
- ・車体に触れると「赤い警告灯が点滅する」
- ・ハンドルを固定する装置、ハンドル・ブレーキをロックする装置

### エンジン停止装置（第3段の対策）

盗賊が自動車を盗もうとしてもエンジンが点火しない仕組み。  
<イモビライザー>

現時点で、自動車を盗まれないための最も効果のある仕組みである。

EC諸国では全ての自動車へ義務付けられている。わが国では標準装備・オプション含めて24車種(2001年6月末現在)に装備。

### 盗難車追跡システム（最終段階の対策）

盗賊に盗まれた自動車の所在を確認し、合わせて警察等へ連絡する仕組み。

最後の手段として、盗まれた自動車をGPS等で追跡し、その所在を確認し、警察等へ通報し回収する仕組みである。

最近では、遠隔操作により盗まれた車両のホーンを鳴らしたりエンジンを自動的に停止させる仕組みもある。

